

今月のことば

自己中心の 色メガネ かけていること 忘れてる

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師
小池秀章

昔、こんな話を聞いたことがあります。

『二人の男が仲良く旅をしていました。森を抜けると、遠くに綺麗なお城が見えてきました。一人の男が、「綺麗な赤いお城だね。」と声をかけました。するともう一人の男が、「何を言っているんだい。あれは、綺麗な青いお城だよ。」と答えました。「赤いお城だ。」「いや青いお城だ。」とお互い一步も譲りません。先程まで仲良く旅をしていた二人は、ついに喧嘩を始めてしまいました。そうこうしていると、向こうからお釈迦さまが歩いてこられました。そこで二人の男はお釈迦さまに尋ねました。すると、お釈迦さまは「あれは赤いお城でも青いお城でもないよ。白いお城だよ。お前たちは、それ赤と青の色メガネをかけているから白いお城が赤や青に見えるんだよ。」と言われました。二人の男はあわてて色メガネをはずすと、綺麗な白いお城が輝いているのが見えました。その後二人は、また仲良く旅を続けました。』

私たちは、常に自己中心の色メガネをかけて世の中を見て、自分勝手な世界を創り出し、他人を傷つけ、自らも傷ついています。しかも、その色メガネは、はずそうとしても、はずすことのできない厄介なものなのです。だからこそ、自己中心の心を離れたさとりの世界（眞実の世界）を、聞かせてもらうことが大切なのです。そして、常に自己中心の色メガネをかけていることを、忘れないようにしたいものです。

合掌